



舞鶴市史編さんだより

第8号

発行日／令和8年
11月1日

文化遺産美術工芸(絵画)の調査はじまる

舞鶴市市史編さん委員会

文化遺産部会 委員 長谷川 貴信

みなさんは絵画と聞いてどんなものを思い浮かべるでしょうか。今回の新修・舞鶴市史では、主に近代より前の絵画作品を対象として、舞鶴市内に伝来した^{かけじく}掛軸、^{まきもの}巻物、^{ふすまえ}襖絵、^{ついたて}衝立、絵馬など、人々の信仰や生活を彩ってきた絵画作品を調査します。先人たちが守り伝えてきた絵画にどんなまなざしが向けられてきたのかを考えることで、舞鶴の豊かな文化を浮かび上がらせることを目指します。

令和8年8月から本格的な調査を開始しました。掛軸などは普段巻いて箱に収納し保管することが可能です。調査では、まず所有者の方にどのような絵画が伝わっているのか伺い、作品を出して頂くところから始まります。その後、一点一点保存状態を確認しながら開き、描かれた内容を観察します。寸法を測り、描かれた画面の素材・技法について記述し、続けて^{らっかん}落款や^{さんぶん}印章、賛文など文字情報を確認し、同時に写真を撮影していきます。全体の構図や描かれた内容などは後から撮影した画像で確認することも可能ですが、線や絵具の塗り方の質感、紙や絹といった素材自体の質感は作品の制作年代を考える上で重要なもので、それは直接の観察によってこそ得ることができるのです。

絵画の多くは絹や紙といった非常に脆弱な素材に描かれています。そうしたものを今我々が見ることができるのは、大切に保存し、時には修理を施し、伝えてきた地域の人々の思いがあったからにほかなりません。貴重な作品を拝見させて頂くことに感謝し、その人々の思いを後世に伝えられるよう調査を続けてまいりたいと思います。



1 仏画の調査 (寺内 瑞光寺)

- 1 落款：作者が書画の完成時に記す署名や捺印のこと
- 2 賛文：絵画の余白などに書き添えられる詩や文章のこと



2 涅槃(ねはん)図の写真撮影 (西 見樹寺)



3 屏風絵の検討 (倉谷 東山寺)



地層と石が語る太古の舞鶴

舞鶴市市史編さん委員会

文化遺産部会 委員 鈴木 茂之

舞鶴市は、昭和52年(1977)から4年間、大学院での研究課題(地質学)で歩いた、私の青春時代のフィールドです。課題は舞鶴帯と呼ばれる地帯を構成する古生代中生代の地層とその褶曲構造^{しゅうきよく}を調べることでした。このたび、委員の皆さんと調査する中で、古生代から現在までドラマチックに変遷した地史が、舞鶴市の地盤に記録されていることを実感しました。

図は舞鶴市とその周辺の地質図です。国立研究開発法人産業技術総合研究所(旧地質調査所)が発行した50万分の1地質図「京都」「金沢」を使用して追記したものです。トピックは沢山ありますが、そのうちのいくつかを紹介します。図中①のクリーム色で示された部分は平野で、沖積層が分布しています。およそ1万年前の氷河期では今より海水準がずっと低かったのですが、8千年前頃には今とほぼ同じレベルにまで海面が上がってきました。そうすると川が運んできた土砂が海辺をどんどん埋めていって平地が拡大しました。舞鶴西総合会館(南田辺)あたりでは、わずか1万年の間に15mあまり土砂が堆積しています。つまり1万年前の西総合会館の場所は空中15mのところにあったことになります。図中②の黄色の部分は約1,500万年前の砂岩など海に堆積した地層が分布している所です。大型の突起で覆われた、ピカリアと呼ばれる美しい巻貝の化石が出ています。この貝はマングローブ干潟に棲んでいたと言われていますので、当時亜熱帯の海があったことが分かります。図中③のオレンジ色の部分は流紋岩が分布していて、それは数千万年前の岩石だと推測されます。この石と産地については新修・舞鶴市史編さんだより第7号で小滝委員が紹介されています。元の山体はまったく残っていませんが、ここに

1 褶曲構造：地層が横からの大きな圧力で波状に曲がった構造のこと

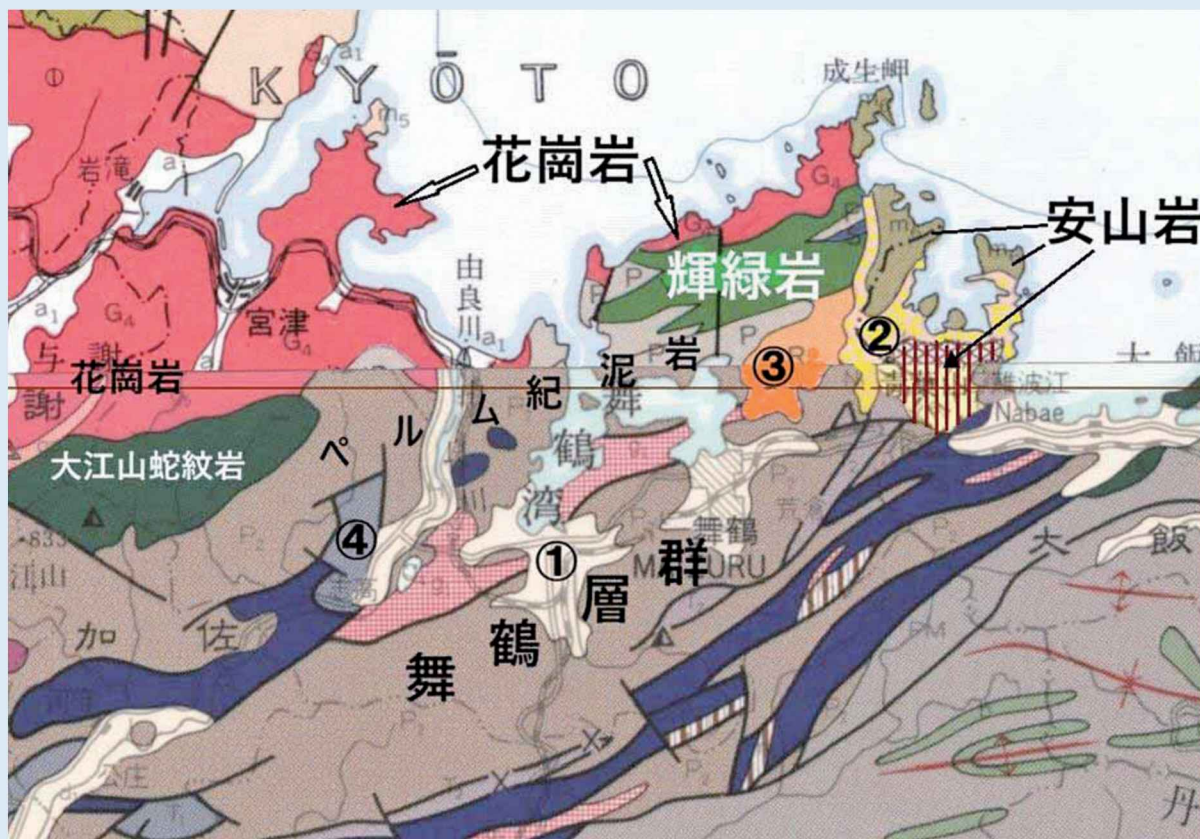


図 舞鶴市および周辺の地質図

は確かに火山があったのです。図中④の青灰色の部分は砂と礫および泥が河口付近で堆積したと推測される三畳紀前期(約2億5千万年前)の志高層群の分布域です。湿地に堆積したシダなどの遺骸は石炭になり(新修・舞鶴市史編さんだより第3号で藺田委員が紹介)、浅い流れでできた砂の漣痕が化石になって残されています。この漣痕のレプリカは青葉山さんろく公園に展示されています(写真)。「舞鶴帯」や「舞鶴層群」は舞鶴が模式地として定義された学術用語です。舞鶴は地質学研究上たいへん貴重な地域です。



写真 志高層群の漣痕化石のレプリカ
(青葉山さんろく公園自然学習館の壁に展示)

舞鶴の記憶 [8]

～ 縄文時代の研究史に 名を刻んだ桑飼下遺跡 ～

桑飼下遺跡は、市内桑飼下地区の由良川右岸の自然堤防上に立地する遺跡です。由良川の拡幅工事に先立ち、昭和48年(1973)1月から7月にかけて行われた面積約2,400㎡の発掘調査により、縄文時代後期(今から約3,500年前)の集落跡が発見されました。

検出遺構は48基の炉跡(10棟程度の住居からなる集落跡)があり、出土遺物では5万点以上の縄文土器片、1,300点余の石器、ドングリ・クルミ・トチ等の実、イノシシ・シカ・タヌキ・ムササビ、ヒキガエル等の動物の骨、コイ・フナ・アユ・スズキ等の魚類の骨が出土しました。

石器では土堀具とみられる打製石斧が942点と非常に多い特徴があり、自然堤防に自生するクズ・ユリ・テンナンショウ、ヤマイモ等の根茎類を掘って食したと考えられます。またドングリやトチの実はそのままだと渋くて食べられないため、水さらしや加熱してアク抜き処理をする技術があったと推察されています。

ほかにも東・西日本の縄文文化の影響が窺われる石柱・石版・石棒・石刀・土偶といった祈りの道具や土製耳飾り等の装飾品も出土しており、豊かな精神文化があったようです。

桑飼下遺跡は、由良川の自然堤防という豊かな自然環境を背景に、狩猟・採集を生活基盤として暮らしを営んでいた「桑飼下型経済類型」として研究史に刻まれています。(Y.H)

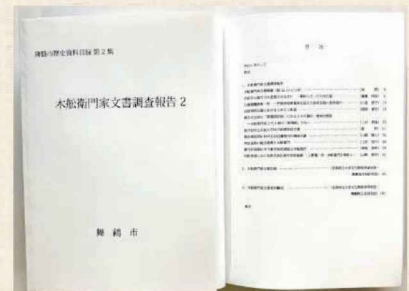


- 写真① ドングリ・クルミ・トチの実
と打製石斧
写真② 様々な形の縄文土器
写真③ 石刀・土偶・石版
写真④ 発掘当時の桑飼下遺跡
写真⑤ 桑飼下縄文遺跡碑
(伊智布西神社鳥居右隣)

市史編さん日誌

令和8年7月～9月(主な活動)

7月1日	文化遺産部会絵図・地図グループ定例研究会 (上杉和央委員ほか委員3名)
7月1・2日	考古・古代・中世部会調査(石川登志雄委員/金剛院ほか)
7月16・17日	近代部会旧軍港グループ資料調査(坂根嘉弘委員)
7月19日	文化遺産部会庭園調査 (仲隆裕委員ほか委員1名/東山寺など4ヶ所の1次調査)
7月31日	『木船衛門家文書調査報告2』 (舞鶴市歴史資料目録第2集)を刊行 写真①
8月3日	現代部会引揚港グループ会議 (黒沢文貴委員ほか委員2名/目次構成、資料調査計画について)
8月3・4日	近代部会資料調査(池田さなえ委員)
8月4日	近代部会資料調査(児玉圭司委員)
8月5日	文化遺産部会絵図グループ調査 (長谷川貴信委員ほか委員3名/見樹寺など2ヶ所の2次調査)
8月5日	文化遺産部会絵図・地図グループ定例研究会 (上杉和央委員ほか委員3名)
8月8日	第5回地域史講話開催 [講師]文化遺産部会(地形・地質グループ)委員 鈴木茂之氏(岡山大学理学部特命教授・名誉教授) [演題]「地層と石が語る太古の舞鶴」参加者47名 写真②
8月11・12日	近代部会旧軍港グループ資料調査(坂根嘉弘委員)
8月13日	文化遺産絵図グループ調査 (長谷川貴信委員ほか委員3名/金村家軸物調査)
8月18・19日	近代部会資料調査(飯塚一幸委員)
8月19・20日	近代部会旧軍港グループ調査 (坂根嘉弘委員ほか委員1名 於:海上自衛隊佐世保史料館)
8月25・26日	現代部会引揚港グループ資料調査(黒沢文貴委員ほか委員2名)
8月29日	近代部会資料調査(池田さなえ委員 於:京都府立大学)
9月2・3日	考古・古代・中世部会調査(石川登志雄委員/松尾寺ほか)
9月7日	文化遺産部会絵図グループ調査 (長谷川貴信委員ほか委員3名/東山寺2次調査)
9月7・8日	近代部会資料調査(池田さなえ委員)
9月8日	近代部会旧軍港グループ資料調査 (小野寺香月委員 於:法政大学大原社会問題研究所)
9月8・9日	文化遺産部会絵図・地図グループ資料等調査 写真③ (上杉和央委員ほか委員3名)
9月18日	文化遺産部会絵図グループ調査 (長谷川貴信委員ほか委員2名/大泉寺2次調査)
9月27・28日	文化遺産部会建造物グループ調査 写真④ (岸泰子委員ほか委員1名/加佐地区1次調査 〈湊十二社ほか38ヶ所〉)
9月30日	文化遺産部会美術工芸・建造物グループ代表者会議 (岸泰子委員ほか委員4名/ 資料編「文化遺産 美術工芸・建造物」の構成、執筆者等について)
7月～9月	市史編さんボランティア活動 (各月2日間実施/木船藤左エ門家文書ほか文書調査、 市史資料写真撮影等) 京都府立大学による古文書調査(適宜)



写真①



写真②



写真③



写真④

【発行】舞鶴市
生涯学習部 歴史文化まちづくり課
(市史編さん係)

〒624-0853 舞鶴市字南田辺1番地 舞鶴西総合会館2階
TEL: 0773-68-9556 FAX: 0773-77-1823
Eメール: history@city.maizuru.lg.jp